

本願寺前門様が著された「いまを生かされて」（文藝春秋）の中に、宇野浩二という方が書かれた「聞く地蔵と聞かぬ地蔵」という童話が紹介されていました。

昔、ある貧しい村に旅のお坊さんがやってきます。お坊さんは2つのお地蔵さんをおつかいでいきました。お坊さんを村人は手厚くもてなしてくれました。

お坊さんは御札に担いできた一対の地蔵を村に残していきました。一つは何でも願いをかなえてくれる「聞く地蔵」、一つは何にも願いをかなえてくれない「聞かぬ地蔵」です。

お坊さんは、「本当は聞かぬ地蔵にお参りする方が良いのだよ」と言い残して村を去って行きました。村人は次々と、聞く地蔵にお願いして願いをかなえ、病気や災難をまぬがれて、豊かになっていきました。

しかし、豊かになった村ではいさかいが絶えなくなっていました。

村人たちは働かなくなったりうえに、他人と比べてより豊かにと望み、果ては他人の不幸さえ願うようになっていたのです。

村の混乱ぶりがここまできた時、お坊さんがふたたび村を訪れます。そして「聞かぬ地蔵にお参りなさい」と繰り返すのです。

村人は初めに言われたことの意味によく気づいて、「聞かぬ地蔵」にお参りするようになったということです。

この短い物語には、人間の願いや幸せに対する価値観や、それを支える欲望の問題が示されているように思えます。私たちの欲望には限りがありません。次から次へとわいてきて、とどまるところがありません。

欲望を満たすためにあくせくし、自分にとって都合の良いものは際限なく欲しがり、逆に自分にとって都合の悪いものは排除しようとしてみにくい争いも起こします。

そのような私の自分中心のころを仏教では「煩惱」と言い、お釈迦さまはこの「煩惱」が私たちの人生においての様々な悩み苦しみの原因であるとお示しく下さいました。

私たちのご本尊としてお釈迦さまが紹介してくださった「阿弥陀如来」は、「聞かぬ地蔵」のように、お願いをしてもお金が儲かる訳ではありませんし、病気が治る訳でもありません。

阿弥陀如来は私たちの際限のない欲望の果てに、いのちあるもの同士が互いに傷つけあい、自分自身のいのちをも傷つけ貶めて、いのちの大切さ尊さを見失っていく危うい存在であること、を底の底まで見通されて、

そのような存在であるということを私に気づかせてくださいます。なりふりかまわず欲望に身をまかせていくのではなく、今、こうして生かされ、与えられているものの価値を見いだし、おかげさまで感謝することの大切さを仏教は教えています。それは、お念仏もうして生きていく生き方において、ひらかれてくる世界だと思えます。

合掌

### 仏さまのお育て

お釈迦様は、「人生は苦である」と言われました。人生を苦と感じ、その人生を如何に克服していくのか、それが私たちの人生に与えられた課題なのです。

私たちは、「あの人が悪口を言った」と言って腹を立てます。しかし、悪口を言うのは向こうの勝手、怒るか怒らないかは、こちらの勝手なのです。しかし、そうはいきません。きつちり

お付き合いをして、一晚中寝られないこともあります。要するに、自分の都合の良いものに対して、愛欲の心を起こし、自分の都合の悪いものに対して、憎しみの心を起こすのです。それも自分の都合によって、コロナ変わっていくから太刀が悪いのです。この心が身を煩わし、心を悩ますのです。その心によって私たちは、どうしようもない苦しみの世界を描き出していくのです。これがなくなればよいのです。話はよく分かるのですが、分かっちゃいるけどやめられない、というのが現実なのです。しかし、身を煩い、心を悩ます煩惱を恥ずかしいと言えるのは、仏さまに出遇っている証拠なのです。

日本人の持っている素晴らしい文化の1つが、恥ずかしさを知ることだと思います。恥ずかしい心が煩惱にブレーキをかけてくれるのです。合掌 『北御堂テレホン法話』

## 私も「さんわ」で建てました

日出店

日出町大神

大川 亘 様



我が家のお墓は、先祖代々の個人のお墓がありました。

新しい仏様も何十年も無いし、累代墓を建てるきっかけがありませんでした。

今年の1月に久しぶりにさんわの営業の方が、挨拶

家内の3回忌が近くなったので、お仏壇も世話をし貫った「さんわ」さんに今度もお願いしました。

社長の渡辺さんとは、石鎚山の関係で前から良く知っていましたので、なにもかもお任せでした。墓地も家から歩いて3分ぐらいで、毎日でも、お参りできます。

一度はお寺さんの納骨堂も考えましたが、戸次でチョット遠いので、これから先段々歳をとるといけなくなるので、近くにしました。子供たちも家に帰ってきたとき

には、直ぐいけるので、墓参りだと特別用意在りません。この前、お寺に預けていたお骨を無事納骨して今は良かったなとホットしているところですよ。

ありがとうございます。

ありがとうございます。

## 森町店

大分市森町

三浦 一義 様



挨拶を見えました「お墓しませんか？」「うちはまだいいわー」と言ったらばかりでした。それが身内で突然不幸ごとがあつて、すぐにさんわさんへ行きました。展示場へ行ったら丁度手頃のお墓があつたので、早速決めました。普段からお墓は気にはなつてましたが、やはり、時期が来ないと出来ないものだなと感じました。地域で累代のお墓はうちが最後に建てましたが、本当にほつとした感じです。これからもしつかりとご先祖供養をしていきます。

美しい日本語の一位は「ありがとう」だという事です。「ありがとう」は人に好感を与える素晴らしい言葉の一つです。『法句経』というお経に「人の生（しょう）を受（う）くるは難（かた）く、やがて死すべきものの、今生命（いのち）、あるはありがたし」という一節があります。生命あるものは必ず死ぬ時がきます。こうして今ここに生きていると

き方、考え方を説き示されたものですが、仏教が日本に伝来して1500年ほど経ちました。初めのうちは宮中や貴族の間において信仰されていたものが、しだいに庶民の間にも広まっていきました。そして本来仏教語であった言葉が一般に使われるようになりました。そのことを知らないで使っている方々が多勢いらつしやるので、しばらく仏教語より出た日常の言葉を掲載したいと思えます。

### ありがとう

美しい日本語の一位は「ありがとう」だという事です。「ありがとう」は人に好感を与える素晴らしい言葉の一つです。『法句経』というお経に「人の生（しょう）を受（う）くるは難（かた）く、やがて死すべきものの、今生命（いのち）、あるはありがたし」という一節があります。生命あるものは必ず死ぬ時がきます。こうして今ここに生きていると

### 仏陀最後の説法の場所



「ことばの旅」静岡県成道寺住職伊久美清智師、著より